

令和7年度 地域情報化アドバイザープロフィール

ふりがな	さかい のりゆき	
氏名	酒井 紀之	
所属・役職	株式会社ソフトウェア開発代表取締役社長 東北情報通信懇談会事務局長 多摩大学情報社会学研究所 客員研究員	
活動拠点	東北・関東・関西	
略歴	1991 年 福島県郡山市にてソフトウェア開発を起業(現) 2011 年 情報支援プロボノ・プラットフォーム(iSPP) 共同代表理事(現・世話人)に就任し東日本大震災による被災地支援を実施 2013 年 公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 共同研究員 2017 年 多摩大学情報社会学研究所 客員研究員 2017 年 総務省電子政府推進員・総務省テレワークマネージャ 2017 年 東北電気通信協力会長表彰 2018 年 東北情報通信懇談会事務局長 2020 年 視覚障がいにより、重度視覚障がい者 2 級の認定を受ける ※1 2023 総務省地方公共団体の DX アドバイザー ほか ※1 全盲ではありませんので単独派遣可能です	
地域情報化の専門分野・技術	・ 基礎自治体市長直轄の情報システムアドバイザーを経験 ・ 県の情報系ネットワーク・サーバシステムの構築及び運用技術責任者を経験 ・ ネットワーク(基盤・5G・Wi-Fi)及びそれらを活用した情報システム構築技術 ・ IoT、エネルギーマネジメントシステム・プログラミング技術・構築技術 ・ API 活用を含む AI ツール、LLM ファインチューニング等技術力を有している	
専門分野	A I 活用 生成A I 活用 人材 (D X 推進のための機運の醸成) 人材 (D X に関する知識習得・研修・育成) ネットワークインフラ (W i - F i / L P W A / 光ネットワーク) デジタルデバйд対策 5 G マイナンバー 防災 教育情報化 / 情報教育 テレワーク R P A 導入 スタートアップ支援 (起業支援) スマートシティ その他	
自治体向けメッセージ	・ 市内ネットワーク (業務系・情報系・LGWAN) の設計・構築、長年にわたる運用経験があり、公共団体の情報システムの専門知識を有しております。加えて、NotebookLM や ChatGPT、Dify などの生成 AI ツールを用い、ローカルナレッジデータベースを活用した業務プロセス効率化の実装とアドバイスをしております。多分野・多種類の経験と技術を持ち、政治的思考能力を兼ね備えています。	
関連サイト	http://www.softwd.co.jp https://www.facebook.com/norisdsc	

地域情報化に関する実績	これまでの経験業務・研究活動	国際電気通信連合（ITU）・仙台シンポジウム、東北総合通信局・シンポジウム、ニューメディア開発協会・講演会、ハイパーネットワーク社会研究所・別府湾会議など、東日本大震災にまつわる ICT 関連の講演など。 （県）情報系システム設計及び構築、運用等業務（民間として） （県）差産業振興の一助として宮城産業振興機構の IT 専門家として企業を支援。 （県・市・町）各種業務に係る選定委員、産業技術研究開発事業東審査委員 （総務省）被災地域情報化推進事業に係る支援員 東日本大震災からの復興にあたり、被災自治体への支援を評価され、平成 29 年度東北電気通信協力会長表彰を受ける。 平成 30 年度より東北情報通信懇談会事務局長を拝命。 令和 5 年度より国土交通省東北地方整備局インフラ DX 研修」に係る講師 民間企業としては、AI 導入コンサルティングや AI ツール活用セミナー講師、データベースを活用した WEB システム、RPA 情報システムを開発している。 近年では、自治体と地元事業者とのマッチングにも力を入れている。 情報社会学会論文『確率-ib によるオンライン・ニュースのトピックのランク付けと BERTopic の比較』（共著）／著書・インプレスジャパン書籍『3.11 被災地の証言 -東日本大震災 情報行動調査で検証するデジタル大国・日本の盲点-』（共著）など
	これまでに関与した地域情報化に関するプロジェクト	（市）情報システムアドバイザー （市）総務省ふるさと元気事業・情報システムアドバイザー （市）消防指令センター整備実施計画業務業者選定委員 （町）基幹システム再構築（クラウド化）選定委員長 （県）震災アーカイブ構築選定副委員長 （市）共同クラウド化アドバイザー （市）次世代通信 L5G の勉強会講師 （町）タブレットコンテンツ更新事業選定委員長 （国）総務省被災地域情報化推進事業における支援員（受託事業） その他地域情報化アドバイザー及び ICT 地域マネージャ、テレワークマネージャ制度内における派遣実績多数。